

2020年(令和二年)6月18-19日(木-金)

水圏植物学実習の一環として、広島大学 生物生産学部の学生25名が水産実験所に来所しました。



* 本実習は、日本政府および広島大学の定める新型コロナウイルス感染拡大防止に関する方針に従い、適切に行われました。
また、実習中フェイスシールドは、実習の状況、天候、気温等、必要に応じて着用されました。

A, B: 新型コロナウイルス感染予防とフェイスシールドの着用に関して、実習生に説明をする加藤准教授。

C: 状況に応じてフェイスシールドを着用して実習は行われました。

D, E: 加藤准教授による藻類の講義風景。



A-C: 顕微鏡を用いて藻類の細胞を観察する実習生ら (B: 顕微鏡の使い方等、必要に応じて実習生のサポートを行うTA). * 顕微鏡観察のためフェイスシールドは外して行われました。
D: ミルから組織片を採集する学生. **E:** ミルの組織片をDAPIで染色する学生. **F:** ミルの細胞 (多核) を蛍光顕微鏡を用いてミルの細胞を観察する実習生.



A-C: 実習生による磯採集風景 (安全のため野外実習では、視界を十分確保するためフェースシールドは外して行われました).
D-F: 磯採集で採集した海藻を押し葉標本にする実習生ら (D: 実習生に押し葉標本の作り方をレクチャーする加藤准教授. E: 図鑑を使い採集した海藻の種同定を行う実習生).